

# 鯉 種 苗 生 産 試 験

佐々木正明・橘 宣三・狩野 武俊

県下の内水面漁業振興と発展を計るため鯉の種苗生産を行ない、主として県東部の養殖種苗、放流種苗として配布すると共に、その他の魚種も併せて養殖技術指導、及び普及指導を実施した。

## 結 果 と 考 察

**採卵，ふ化** 4月下旬に親魚の抱卵熟度に留意して雌，雄の選別を行ない，5月中旬に採卵を行なった。採卵は良好で1回で終了した。採卵した卵はふ化池に移して，ふ化を行ない，ふ化期間中の水生菌の発生を防ぐため，1日置きに5ppmのマラカイドグリーンで，30～40分薬容を行なった。期間中水生菌の発生もなく，85%のふ化稚魚を得る事が出来た。

**施 肥** 5月上旬に，ふ化毛仔の初期飼料となるミジンコの発生を促進するため，稚魚池12面（3,750㎡）に石灰，乾燥鶏糞施肥及び水張りを終了した。

ミジンコの発生は良好であったが，12面中4面にカイミジンコが大量発生して，他の飼料となるミジンコが減少したが，そのまま元池として使用した。

**青仔養成** 毛仔放養は，カイミジンコの発生した池も，発生しない池も同じように㎡当り350尾を目安として毛仔放養を行なった。

配合飼料の給餌は，カイミジンコの発生した4面には，初期飼料となるミジンコが減少したため1日目より給餌を行ない，その他の池は4日目より給餌を行なった。

毛仔放養と平行して，カイミジンコの食害を観察するため，水槽にカイミジンコだけの水槽と，カイミジンコとその他の飼料となるミジンコの水槽を各2個ずつ準備して，毛仔放養し10日間観察を行なった。期間中は無給餌で行なった。結果は7日目にカイミジンコだけの水槽は，少量の斃死魚を確認したが，カイミジンコによる食害は見られなかった。カイミジンコの食害については，今後継続して観察したい。

6月下旬に，青仔選別と稲田用種苗の配布をかねて，全種苗を取り掲げ，計数をした。

結果は，病気の発生もなく，良好であったが，カイミジンコが大量発生した4面の池は84%他の池は68%前後の歩留であった。カイミジンコの発生池は，初期飼料となるミジンコの減少が歩留の影響を及ぼしたと思われる。

**資仔養成** 青仔を取り掲げた池12面(8,750㎡)を、簡単な整地を施して石灰消毒を行ない、1~3gものを体重別に選別し、1面に15千尾を放養した。

10月上旬より取り掲げを行ない、養成期間中は病気や事故もなく順調であった。

取り掲げ結果は、歩留87%であった。そのうち体長13cm、体重25g前後のものが65%を示した。

**配布** 生産種苗の配布は、市町村、農協、漁協を通じ配布を行なった。配布状況は表1の通りである。

第1表 配布状況

種 苗	稲 田 用	放 流 用	合 計
真 鯉	4 6,4 8 0尾	2 7,6 0 0尾	7 4,0 8 0尾
色 鯉	2 8,6 0 0尾	—	2 8,6 0 0尾

**指 導** 鯉については、飯石郡、大原郡、仁多郡の一般農家を対照に食用鯉生産指導を行なった。

冷水魚の、ヤマメ、虹鱒は、採卵、ふ化、養成の現地実施指導及び魚病対策指導を行なった。

指導を行なった主な所は、飯石郡頓原町菅ヤマメ養殖場、吉田村田部林産虹鱒養殖場、邑智郡瑞穂町市木のヤマメ養殖場、那賀郡金城町波佐ヤマメ養殖場、他に農家の副業的なものを8箇所行なった。

ワカサギ人工ふ化放流、宍道湖漁協の依頼により3月に諏訪湖産ワカサギ卵5,000万粒の、ふ化をして宍道湖に放流した。